

スマート オーラルトレーナー SMART ORAL TRAINER

- ✓ 台湾製、信頼できる品質
- ✓ 生体適合性に配慮した空気圧センシングと位置決め設計で、正確な測定を実現
- ✓ インタラクティブなゲーム型トレーニングに対応し、継続意欲を高めます
- ✓ アプリ連携のモニタリング機能で、医療スタッフによるタイムリーなプログラム調整をサポート



台湾特許 第I884892号



医療・産業連携 台湾独自開発

高雄市立小港病院 咀嚼・嚥下機能再建センターとの共同開発により、臨床ニーズに応えるスマートデバイスを実現。



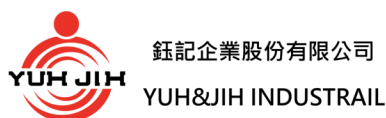
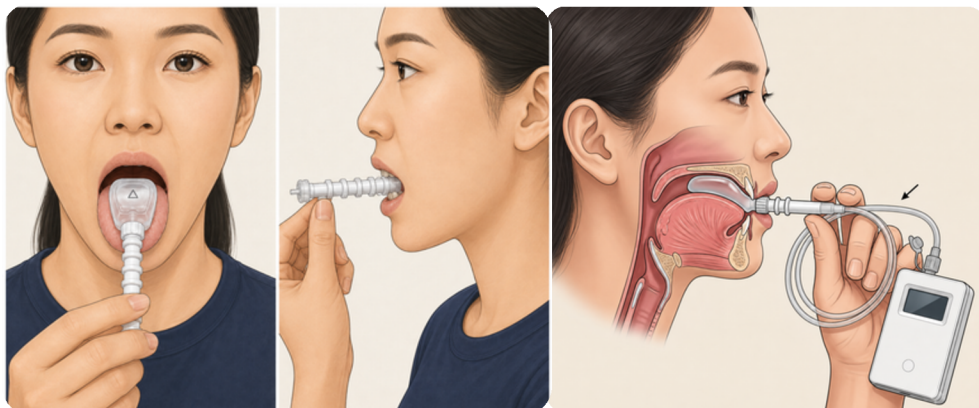
測定＋トレーニング 一体型設計

空気圧センサーを内蔵し、舌の力をリアルタイムで測定。視覚的フィードバックを活用したトレーニングで、リハビリへの参加を促します



遠隔ケア Bluetoothデータ連携

トレーニングデータをモバイル端末に保存し、医療スタッフが遠隔で成果を確認。在宅ケアや介護をより効率的にサポートします



咀嚼呑嚥機能重建中心
Multidisciplinary Swallowing Center



共同開発・技術導入・販売代理店に関するお問い合わせをお待ちしております。
毎日の健康に、信頼できるケアを。



407 台湾
台中市西屯区
工業区三十七
路19号



「デジタル嚥下評価・トレーニングシステム」を活用した 舌圧の測定と評価、および嚥下訓練の実施

説明

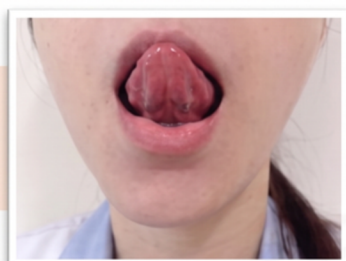
デジタル嚥下トレーニングシステムは、
リハビリ計画のために舌圧を評価します。
正常な成人は 40～60 kPa に達し、高齢者は
少なくとも 30 kPa に達する必要があります。
30 kPa 未満の値は嚥下に影響を及ぼす
可能性があります。



スピーチセラピー：舌のトレーニング

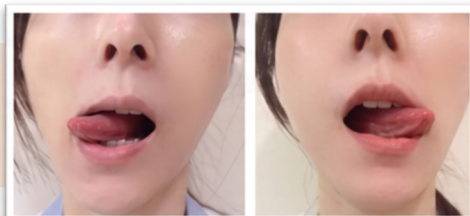
軽度舌圧不足 (15-20kPa)	中度舌圧不足 (10-15kPa)	重度舌圧不足 (10kPa未満)
頻度 ：每天、2～3回舌筋肉の鍛錬を行います。	頻度 ：每天、3～4回舌リハビリ訓練を行います。	頻度 ：每天、4～5回専門的なリハビリ訓練を行います。
回数 ：毎次10～15分間、を上顎に押し当てる動作を含み、数秒間維持してからリラックスします。これを10～15回繰り返します。	回数 ：毎次15～20分間、舌の可動範囲を広げる動作（舌のストレッチ、左右移動、上下に唇を舐める動作など）を行います。	回数 ：毎次20～30分間、専門の言語療法士の指導の下行うことをお勧めします。効果を高めるために、補助器（舌圧トレーニング器具など）を使用する場合もあります。

エクササイズイメージ



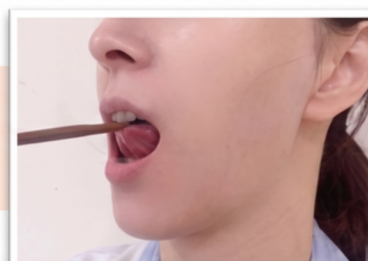
舌尖挙上

舌の先端を上顎または上唇（前歯の後ろの硬口蓋または前歯の前）に当て、5秒間保持し、10回繰り返します。



左右舌尖訓練

舌を左右、上下に交互に動かします。舌をできるだけ左、右に移動せ、安定した速度を保ちます。



舌尖押圧訓練

舌の先端で舌圧板（舌下板）を上押し、力を3-5秒間保持します。